

辯護國文書第二八〇〇號

正誤表 (武蔵章冒頭陳述)

頁	行	正	誤
二五、六		この期間の大部分を通じて被告は兵站業務規程の改正にたづなはつてゐたことを立證する證據を提出いたしまゝ。、、、を削除	
八十一		決意は慎重研究の結果マニラ市を	決意は當初計畫して居た通りマニラ市を

## 辯護側文書第二八〇〇號

武藤章冒頭陳述

裁判長及裁判官各位

私は武藤章被告の個人辯護のためにこれから提出されます證據の概要を簡単に説明いたしたく存じます。

本説明に於て、私は、檢察側提出の證據を概略四つの期間に分ちます。私共の證據は、この檢察側の證據を反駁し反證することを目的といたします。

即ち(一)支那事變を通じてこの被告の地位並にその活動。(二)檢察側證據の大半が對象としてゐる軍務局長としての被告の在任期間。(三)被告がスマトラに於て師團長を勤めてゐた期間、之は戦争の殆んど全期に亘るものであります、次に(四)比島に於て山下將軍の參謀長として勤めてゐた期間之であります。

私は被告武藤は、これまで提出された被告に不利なる證據を充分に否定する陳述をなすため自ら證人臺に立つてゐらうことを最初に申しあげます。

滿洲事變並に支那事變の全期間を通じての被告の活動と權限に關して

に、當法廷の注意を喚起したところの、既に記録に載つてゐる證據が被告は比較的重要でない地位にあつたこと即ち參謀本部の兵站班の一將校であつたこと、その後は參謀本部の一課長であつたことを明にしておきます。

この期間の大部分を通じて被告は兵站業務規定の改正にたづさはつてゐたことを立證する證據を提出いたします。

此期間に關して提出を予定される唯一の證據は被告自身の十分な説明を別とすれば、英國のピゴット陸軍少將の口供書であります。

同少將は武藤を評して完全に武人であるといふ又さる難問題解決に際しての武藤の努力を稱揚してゐます。

既に記録されてゐる證據によれば、更に南京事件當時には被告は統帥上の責任の全然無い參謀副長にすぎなかつたことが明であります。

軍務局長としての被告の在任期間に関する立憲に吾々は最大の重點をおきます。この期間に關しましては檢察側は田中隆吉の証言を最大の據り所としたのでありまして、田中は武蔵將軍は軍務局長として偉大なる雄力を揮つたと証言したのであります。然しながら吾々は右の陳述は虚偽であること、即ち凡ての局長が其の權限の點で平等であつたといふこと又本件被告は斯くの如き凡ゆる他の局長と同様な立場に立つてゐたといふことを示したいと思ふのであります。

田中は亦軍務局長は阿部内閣當時から日獨伊の三國同盟締結に對しては強力な政策を持つてゐたと証言致しました。吾々はそのことが虚偽であるといふことを當時の軍務局長の一課長であつた證人により立証致します。田中は更に陳述を行ひまして本件被告は戰爭勃發前に於ける局長會報に於て「對米英開戰名目骨子」と題する草律を朗讀したること、又個人的な見解を表明したること、又更に來栖大使と齋田丸を派遣したことはカムフラージに過ぎなかつたと述べたと主張致しました。吾々は右の陳述が全く虚偽であることを示す證據を提出し又問題となつてゐる右會報に出席した一證人を出産致させます。

武蔵將軍につきましては彼は重要な政略を決定する何等の權限を有し

なかつたこと、彼は斯様な事柄について何等の決定を與へなかつたこと、  
 陸相の一暴條として行動し、彼に適當せしめられた義務を履行したに過  
 ぎなかつたといふことが示されるでありませう。この點に關して吾々は  
 西浦大佐の宣誓供述書を提出致します。同大佐は軍務局に長年に互り勤  
 務致し、報告の行動によく通じて居ると同様に軍務局の任務職掌に關す  
 る權威者であつたのであります。  
 我々は武蔵將軍が、日米交渉の圓滿妥結に對して絶へず全幅の勢力を拂  
 つた事に關して我々の提出する證據につき裁判所の格別なる御注意を喚  
 起したいと存じます。  
 彼の斯る勢力は、止む事がなく甚だ熱烈でありました。其のため彼は一  
 時交渉に反對せる一味から暗殺される危険がありました。田中陸吉すら  
 この期間中彼が武蔵が憲兵の特別護衛を與へられた事を否定する事が出  
 來ませんでした。我々は、第三次近衛内閣總辭職の直前、彼が武蔵が海  
 軍側から戦争反對の態度を明瞭ならしめんと努力した事は、何等不純の  
 動機からでなかつた事を示すでありませう。それは不純の動機どころか  
 正反對でありました、それは陸軍省が參謀本部の態度を抑へんが爲めに  
 必要な後援を得んとする企てでありました。  
 この點に關して我々は多くの證據を呈示して武蔵將軍が戦争を完全に同  
 意せん事を望み且つ努めたる事を明かに致しませう、この證據中には日米  
 間の紛争の圓滿解決に熱烈に活動したメリノール教會のジエームズ・エ



ドワード・ウォルシュ信正の宣誓供述書も含まれてゐます。  
然し、わが戦争を同達せんとするこの被告を含む多くの人達の眞剣なる  
努力にも拘らず戦争は起りました。被告國は、被告武藤が實際に戦争に  
反対だつたならば辭職し待ただらうし又辭職す可きだつた、然るに彼が  
軍務局長の職に留つたのは戦争開始に彼が同意した充分の證據であると  
主張してゐる様に見受けられます。我々は主張しますがこれは如何なる  
國の職業軍人も賛成し難きところでありまして、辭職といふ事は日本の  
國軍では殊更傳統的に出來ない事でありました。更に

我々は無能力の理由以外に辭任といふ事が實際上不可能であつた事を明らかにしたいと思ふのであります。更に元陸軍省人藝部長野田諒吾の口供の中に既に示され又これから尙明白になる如く、武蔵將官は一九四一年の秋に武蔵府から縣出するべく努力したのであります。

右に述べた點すべては彼が急速に悪化しつゝあつた日米交渉に於いて誠意をもつてゐた事を極めて明白にする所の證據となるものであるといふのが我々の主張する點なのであります。しかしながら彼は戦争勃発の暫く後までその地位を免ぜられませんでした。辭任や轉任に關する問題には、戦時中陸軍省人藝部長の一員で今第一復員局人藝部長の地位にゐる證人により明らかにする筈であります。

戦争勃発直後の重大時期に武蔵被告は南方へ觀察旅行をなすべき命を受けました。この旅行から歸つて來るとすぐ彼は近衛師団長としてスマトラへ赴任すべき任務を受けました。そこで彼は直ちに連任の準備を始め、その後近衛師団の仕事を終る時ありませんでした。彼がスマトラで指揮した近衛師団は日本陸軍の中で最も模範的な且つ軍紀の正しい軍団であり、彼の師団長としての任期中事故は一つも起らなかった事實を証言致します。停戦後一般被抑留者の管理は彼の任外でありましてこの事も充分に證明されるのであります。なほ、彼は決してこれらの人々を勞役に従事せしめ

た。平 人の証言によつて充分に明白となつてゐる。この事はスマトラで就任した参謀長であつた。



米軍の比律賓レイテ島攻撃の直後本被告は山下大將の參謀長として比律賓に赴きました。これは昭和十九年十月のこととて、同人の陸軍に於ける最後の任務でありました。陸軍參謀本部及南方總軍はあらゆる犠牲を拂つてもレイテの米軍に反撃を加へようと決意しました。

此の計畫の變更は山下の呂宋防衛案に極度の障礙を齎しました。其の結果山下は、その人員並に資材の大部分をレイテに送らなければならなかつた後に勝ち誇つた壓倒的優勢な米軍に呂宋に於て對抗する必要に面したのであります。武藤將軍は山下を援けて不祥事件の發生の防止にあらゆる手段を講じました。斯る方針の下に爲された努力はマニラの墮棄といふ日本軍側の決意によりよくこれを證することが出来ます。右の決意は當初計畫して居た通りマニラ市を公開都市として置くことが出来ないといふことが明白となつた時に爲されたものであります。然し乍ら裝備に於て機動力に於て、將又火力に於て遙かに優秀なアメリカ軍は驚くべき速度を以て進撃し來り日本軍を寸斷致しました。斯くして日本軍は各部隊毎に孤立せしめられ、山下の統帥組織は破壊せられたのであります。正式の指揮は文字通り不可能となりました。

彼の預行爲は山下又はこの報告の何れも毫も知らざるうちに、又兩人の承認なくして、山下の指揮の及ばなかつた軍隊に依り行はれたのであります。武蔵はそれらを堅固すべき地位にはありませんでした。然し出来る限りのことは致しました。

此の點は既に一般段階に於て小林修治郎や其他の証人に依り証言せられたところであります。私共は我々の論點を支持する爲めに比律賓派遣日本軍の參謀であつた今一人の証言を提出致します。

且又當時の混戦として手の附けられぬ有様であつたことに就ての証言はマーシャル大將の隔年報告に依り明らかにされるであります。此の報告は武蔵報告が到底馬尼刺の事件を防止し得なかつたことを斷然示すものであります。

私共はなほ又問題となつてゐる諸點特に日本陸軍將校の辭職並に轉任に關する點を明らかにする爲め若干の文書を提出致します。最後に被告自ら証人臺に立ち彼に對し尋問せられてゐる事項に就て充分証言致すであります。